

第1章 調査の概要

1. 調査目的

会津若松市では、「すべての人にやさしく、暮らしやすいまち」の実現を目指し、ユニバーサルデザインに関する様々な施策に取り組んでいます。

本調査は、「第3次会津若松市ユニバーサルデザイン推進プラン」の計画期間満了に伴い新たなプランの策定の基礎資料とするとともに、ユニバーサルデザインに関する市民の意識及び社会情勢の変化に伴う新たな問題に対する意識等を総合的に調査し、今後の施策の方向性等の参考とするために実施したものです。

2. 調査設計

- (1)調査対象:会津若松市在住の20代から70代までの方
- (2)標本数:2,000人
- (3)抽出方法:住民基本台帳より層化二段無作為抽出(層化二段:性別、年齢)
- (4)調査方法:①郵送法(配付・回収とも郵送)による自記式の意識調査
②インターネット調査(アンケートフォームによる回答)
- (5)調査時期:令和2年8月17日から令和2年9月25日

3. 調査内容

- (1)回答者の属性について(問1～5)
 - (2)ユニバーサルデザインについて(問6～10)
 - (3)「こころのユニバーサルデザイン」について(問11～16)
 - (4)ユニバーサルデザイン(こころのユニバーサルデザインを含む)全般について(問17～19)
- 附属アンケート:男女共同参画について

4. 回収結果

配付数(A):2,000

有効回収数(B):576(男性:221、女性:279、どちらでもない:2、性別無回答:74)

有効回収率(B/A):28.8%(男性:38.4%、女性:48.4%、どちらでもない:0.3%、
性別無回答:12.8%)

5. 調査項目一覧

分類	問番号	調査項目
1. 属性	1	年齢
	2	世帯の状況
	3	市が発信する情報の収集手段
	4	情報収集手段としてのインターネット利用の有無
	5	情報収集手段としてインターネットを利用しない理由
2. ユニバーサルデザインについて	6	「ユニバーサルデザイン」という言葉の認知・理解度
	7	「ユニバーサルデザイン」という言葉を知ったきっかけ
	8	「ユニバーサルデザイン」への関心度
	9	日常生活におけるユニバーサルデザインの浸透度
	10	ユニバーサルデザインの考え方を特に導入していくことが必要だと考えるもの(ハード面/ソフト面)
3. 「こころのユニバーサルデザイン」について	11	障がいのある方等の困っている人への手助け
	11-1	困っている人への手助けができない、またはしたくないと思う理由
	12	困っている人への声のかけ方や手助けの仕方
	13	「障害者差別解消法」の認知度・理解度
	14	外国の方への手助け
	14-1	外国の方への手助けができない、またはしたくないと思う理由
	15	「ヘルプマーク」の認知度・理解度
	16	「こころのユニバーサルデザイン」実践のために必要だと思う取組
4. ユニバーサルデザイン(こころのユニバーサルデザインを含む)全般について	17	様々な状況の方たちに必要と考えるユニバーサルデザイン
	18	新型コロナウイルス感染症と「こころのユニバーサルデザイン」
	19	本市のユニバーサルデザインの推進に関するご意見/ご提案
男女共同参画について	—	性別(自認する性)
	—	男女の地位の平等感について

6. 調査結果の見方

(1) 調査の数値

- ① 調査結果の数値は、原則として回答率(%)で表記しています。
- ② 数値は、小数第二位を四捨五入し、小数第一位まで表示しています。そのため、質問に対する回答の選択肢が一つだけの場合で、選択肢の数値(%)をすべて合計しても、四捨五入の関係で 100%にならないことがあります。
- ③ 質問に対する回答の選択肢が複数の場合、回答者数を分母として比率(%)を計算しているため、選択肢の数値(%)を合計すると、100%以上となっています。

(2) 図表の見方

- ① グラフや表の中で、アンケート調査票の選択肢の文章が長い場合、要約して短く表現している場合があります。
- ② 比較分析などの際に調査項目がなかった場合、図表に「-」と表示しています。
- ③ グラフの中で、回答がなかった場合等にスペースの都合上「0.0」の表記を省略している場合があります。

(3) 自由意見について

明らかな誤字・脱字等の訂正を除き、原文のまま掲載しています。